

教育子午線

June
2007

Kyoiku-Shigosen

●教育最前線

学校現場の諸課題に対応し
授業実践リーダーとなる
教員の養成をめざして

●研究レポート

絵画に見る「結婚」のイメージ

●私たちの先生

藤井徳行教授 (社会・言語教育学系)

●キャンパス通信

●うれしの交差点

ルポ: スクール・パートナーシップ事業

次の学習指導要領では、できるだけ到達目標を精選して明確化したかたちで示そう、という方針になっています。目標の実現をめざす教育活動を行い、その結果を確認して、不十分な点については補充学習を行い、目標が十分実現していれば発展的な学習をする、という教育活動に転換していこうということです。

私が以前から繰り返し主張してきたように、これは着実に力のつく教育、そして躍動する教育のために不可欠の方向です。

こうした目標準拠型の「指導と評価の一体化」を学校現場に根付かせたいのは、「目がキラキラ」「みんなイキイキ」という素人臭い印象批評的な授業観を

学校から一掃するためでもあります。指導をしないこと、教えないこと、説明も指示も課題提示もしないことが「良い教育」のための必須の条件であるとされた一時期の「ゆとり教育」の無責任な授業観を払拭するために、到達目標の意識を持つことは不可欠でしょう。

実は、こうした方向付けが明確になったのは、平成14年度からの現行学習指導要領の実施に伴って、評価の原則が絶対評価（目標に準拠した評価）とされた時からと考えることができます。しかし、これを本当に実

のあるものにするためには、学年ごとに示される各教科の到達目標を単元のレベルで明確化するという作業が不可欠となります。学年目標は抽象的で総合的

到達目標を意識した教育を

なものですから、現実の授業に生かしていこうとすると、どうしても具体的な単元ごとに到達目標を考えていく必要があるのです。

ベンジャミン・ブルームの理論がわが国に導入された1970年代から、単元目標の分析、精選、構造化と、それに基づく単元指導計画の作成を試行する実践研究が各地で行われてきました。が、今こそ、こうした研究成果から学ぶべき時でしょう。特に「体験」「関心・意欲」「思考力」「技能」「知識」の5領域ごとに単元目標を検討していく（目標分析表）の作成と、それを基礎に1〜3個の「中核目標」を設定し、それを支える「基礎目標」群を精選し、構造的に明確化して、「前提目標」と「発展目



標」の想定を加えるというかたちの（目標構造図）の作成は、重要な意義を持つ手法です。現在も具体的な取り組みが各地に見られます（兵庫県立教育研修所刊「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集）など）から、十分に参照していただきたいと思います。

【参考文献】「教育評価入門」梶田徹一著（協同出版・平成19年刊）

2月

1日~2日

◎附属小学校研究発表会

5日

◎北播磨地域学習フォーラム



北播磨地域学習フォーラム

18日

◎大学院連合学校教育学研究所
入学者選抜試験

24日

◎附属小学校「うれしのフェスティ
バル」

25日~26日

◎学部前期日程入学者選抜試験

27日

◎学部私費外国人留学生特別選
抜試験

【目次】

04	教育最前線 学校現場の諸課題に対応し 授業実践リーダーとなる教員の養成をめざして
08	研究レポート 絵画に見る「結婚」のイメージ 喜多村明里(体育・芸術教育学系准教授)
09	教育時事一問一答 教員の著書紹介
10	私たちの先生 藤井徳行教授(社会・言語教育学系)
11	卒業生からの手紙
12	キャンパス通信
14	うれしの交差点 学校現場や地域の学びの場に 大学教員が“出前講座”します スクール・パートナーシップ事業
16	兵庫教育大学からのお知らせ

News

神戸サテライトが
ハーバーランドに移転しました

神戸サテライトが4月1日、JR元町駅の北側からハーバーランドの神戸情報文化ビルに移転。夜間クラス生がより快適に学べるよう演習室などを充実させました。4月11日には、県内の教育関係者などが参加して開所式を開催。梶田学長が「教職員が一丸となって、働きながら大学院に通い教育実践力を身に付ける学生たちを支援していくサテライトを、教育と文化の発信の拠点としていきたい」と力強くあいさつをしました。



を身に付ける学生たちを支援していくサテライトを、教育と文化の発信の拠点としていきたい」と力強くあいさつをしました。

3月

11日

◎大学院第2次募集入学者選抜
試験

12日

◎附属中学校卒業証書授与式

◎学部後期日程入学者選抜試験

16日

◎附属幼稚園修了証書授与式

19日

◎附属小学校卒業証書授与式

23日

◎大学院学校教育研究科学学位記
授与式

◎学部学位記授与式

◎大学院学校教育研究科(夜間
クラス)学位記授与式

27日

◎大学院連合学校教育学研究科
学位記授与式

4月

5日

◎大学院学校教育研究科入学式

◎学部入学式

10日

◎附属小学校、中学校入学式

11日

◎附属幼稚園入園式

◎神戸サテライト開所式

11日

◎西脇市との「連携協力協定」調
印式

13日

◎大学院連合学校教育学研究科
入学式

5月

9日

◎多可町との「連携協力協定」調
印式

9日~6月27日

◎公開講座「和文化体験講座—
居合道の理念と技法—」(全8回)

12日~6月30日

◎公開講座「人間・こころ・知一常
識を見つめなおす—」(全8回)

12日~10月13日

◎公開講座「楽しくてうまくなるテ
ニス教室」(全14回)

21日~25日

◎公開講座「地域理解のための
地図作成の基礎技術—コンピュ
ータ・マッピングによる主題図作成—」
(5日連続)



附属小学校入学式

June, 2007

学校現場の諸課題に対応し 授業実践リーダーとなる 教員の養成をめざして



◎TEXT



授業実践リーダーコース長
岩田 一彦
(社会言語教育学系教授)

児童生徒の学力低下が指摘される昨今、授業の在り方を問う声も高まっています。各学校ではより良い授業づくりをめざして研究に取り組んでいます。その学校に研究リーダーとなる教員がいなければ、十分な成果は得られません。今年度からスタートした「授業実践リーダーコース」では、研究リーダーとしての資質や能力を備えた教員の養成に取り組んでいます。

日本の小学生たちは午前8時ごろに登校し、午後3時半ごろに下校するのが一般的です。8時間ほどの学校生活のうち、当然、最も多くの時間を費やしているのが授業です。「授業実践リーダーコース」では「授業を極める、学校現場とともに」を掲げ、授業実践の在り方と学校の実践課題の解決を中核にすえて教育研究に取り組んでいます。

授業を極めるとは

「教師は授業で勝負する」「最大の生徒指導は授業である」。この2つの言葉は小中学校の教育現場でよく聞かれます。現在の学校も積極的に授業の研究に取り組んでいます。授業そのものの在り方を科学的に研究している学校は少ないです。このことは「研究授業」の事後検討会で感想的な発言ばかりが飛び交い、焦点の定まらない議論が繰り返されることにも表れています。研究授業では、その授業で有効性が検証された手だて（授業理論）が参加者に共有され、より多くの子どもに返されることが大切です。

「授業を極める」とは、子どもの現実から出発し、より有効的な授業理論を数多く持っていることを意味します。教員としての経験と勘だけに頼らず、どのようにしたら子どもを変えるこ



同コース担当教員
米田 豊
(社会言語教育学系教授)

とができるかを常に意識して実践し、科学の光を当てることです。「授業を極める」ことにつながります。

授業実践リーダーの 必要性

授業の研究は、一人の教員が単独で行っても大きな成果は得られません。授業は教員と子どもたちでつくり上げるものですから、研究そのものが教師の集団活動でなければなりません。しかし、研究授業を行っていても、研究課題やそれに応じた研究仮説の設定、研究仮説の検証過程の展開などが、科学的、実践対応的に取り組めていない学校が見られます。それはその学校に優秀な研究リーダーがいないうえ、十分に成果が上がっていないからです。優れた授業実践が展開でき、研究リーダーとしての資質や能力を十分に備え



ている教員の育成は教育界の喫緊の課題といえるでしょう。

授業実践リーダーコースでは、次のような教員の養成に力を注いでいます。

①優れた実践的指導力を備えた教員

②学校で指導的役割を果たしうる教員

③学校教育の抱える複雑かつ多様な諸課題に対して、実践改革へのリーダーシップを発揮できる教員

専門科目と実習科目

授業実践リーダーコースでは専門科目に、授業理論、実践課題の分析、授業モデルの開発などを組み込み、学校現場の諸課題と直接的に結び付いた授業を行います。本来、大学

◎授業実践リーダーコースの授業科目【専門科目】

分野	科目名
教員養成・研修におけるメンターシップに関する分野	<ul style="list-style-type: none"> ▶メンタリングの理論と実践 ▶教育実践者の専門的な思考形式とその知識基盤
研究推進・課題解決研究に関する分野	<ul style="list-style-type: none"> ▶教育実践研究の組織化と推進 ▶学校における実践課題の発見・探究過程 ▶学校カリキュラムのデザイン（開発とその評価） ▶学習環境の開発と改善
授業実践開発・教材開発に関する分野	<ul style="list-style-type: none"> ▶教科カリキュラム開発、単元開発・指導法開発及びその評価 ▶高度な授業実践における授業の設計、展開、分析・評価及びその改善 ▶素材研究と教材開発に関する理論及び方法・技術
教育実践改善研究に関する分野	<ul style="list-style-type: none"> ▶教育実践課題解決研究

【実習科目】

科目名
▶メンタリング実習
▶教育実践研究開発プロジェクト実習
▶教育実践改善研究実習

院の授業は一人の教員が担当しますが、授業実践リーダーコースでは学生と複数教員が一緒に課題解決に当たり、授業をつくり上げていきます。

実習科目に10単位を割り当てているのも、従来の大学院にはない大きな特徴です。現職で派

遣されている院生は現任校の課題の、ストレート院生は連携協力校で各自の研究課題の解決に取り組みます。

※研究授業：新しい授業づくりの一環として、そのモデル授業を学内外の教員に公開するもの。各学校で行われており、兵庫教育大学附属学校園でも毎年実施しています。



授業実践リーダーコース担当教員

もり やまじゅん
森山潤

(自然・生活教育学系准教授)

多様な「かかわり」の中から学び 自身の授業を見直す

学

校現場では「理論と実践を統合すること」の重要性が叫ばれています。しかし、現実には「理論」と「実践」との乖離が問題になることが少なくありません。そこで、「授業実践リーダーコース」では約200の連携協力校と協働して、講義や実習を構築していくスタイルを重視しています。

例えば、「教育実践課題解決研究」では「教育実践研究開発プロジェクト実習」と「教育実践改善研究実習」に連動して、学校現場の実践課題の解決に取り組みます。1年次から受講生の問題意識に基づいたプロジェクトを立ち上げ、連携協力校の研究テーマとも関連づけながら、2年次からグループ単位でのアクション・リサーチを展開していきます。また、授業実践開発・教材開発に関する分野では、カリキュラムや単元、指導方法の開発、素材研究や教材の開発において、授業実践リーダーコースの教員(教育方法の専門家)と他コー

スの教員(各分野の専門家)が連携、協力して授業を行います。

昨年12月に開催された本学の教員養成GP成果報告会では、「高度な授業実践における授業の設計、展開、分析・評価及びその改善」の模擬授業を実施しました。この授業は、児童生徒の発達に即して創造的な学力の形成を支援する高度な授業の計画的・組織的な実践力を培うことを目標としたものでした。授業の前半は、高度な授業実践に向けた諸理論を学習した後、教科学習の現状と課題をケーススタディを通して検討し、受講生一人一人が授業改善に向けた研究課題を明確にしました。後半では、創造的な授業設計として学校種や教科別のグループに分かれ、受講生各自の研究課題を深めました。ケーススタディによって教科学習の現状と課題を検討するにあたっては公開授業を行いました。中学数学科の授業を記録したビデオクリップを教材に、

①教師のコミュニケーション・スキル、

②生徒の話し合い活動とその支援、
③「学び」の意味づけを図る課題設定

といった観点から議論し、受講生から出た意見をイメージマップ上に整理することで、自己の授業改善研究の方向性を定めていきました。

受講生や参観者たちからは、「他の先生の授業を批判的に見ることで、自分の授業についても深く考えることができた」「他の受講生の意見を聞いて、自分の視野がさらに広がった」「授業を改善していくことの大切さを再認識した」などの声が聞かれました。このような多様な「かかわり」の中からオーセンティックな「学び」を創出していくことが、授業実践リーダーコースの大きな特徴です。

※教員養成GP成果報告会：文部科学省の「大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)」に採択された兵庫教育大学のプロジェクト「大学と教育現場の協働的教師教育プログラム」の一環として昨年12月に開催。カリキュラム紹介や公開研究授業などを通して教職大学院の運営体制のモデルを提示しました。



教員養成GP成果報告会での公開研究授業

今

春、姫路市立飾磨小学校から姫路市立教育研究所に異動し、教員の新任研修、経験者研修なども企画しています。教員はその経験年数や学校内での立場などによって求められるものは違ってきますが、どの教員にも期待されるのは「授業をする力」です。

私自身、若いころから「授業を見れば、その教師の力量が分かる」とよく先輩教員に言われ



やまもと けいそく さん
山本恵三さん

姫路市立教育研究所管理指導主事

教員として幹になる部分 質の高い授業をする力を 身に付けてほしい

てきました。授業の力を付けた
いと切に考え、先輩の授業を参
観させていただいたり、研修会
に参加したり、研究授業を引
き受けたりもしてきました。授
業の根底には、普段の学級経営
があり、子どもをどれだけ理解
しているかが問われており、生
徒指導の力が影響していたりと、
さまざまなものが輻輳している
ことを実感として受け止められ
るようになったのはかなり後にな
ってからです。

教員はどっしりとした木の幹
になる部分、すなわち「質の高い
授業をする力」をしつかりと身に
付けなければなりません。「授業
実践リーダーコース」はその力を
持った教員を養成するところで
あると確信しています。幹にな
る力をつければ、ほかのさまざま
な場面での問題にも対処でき
るようになり、子どもたちの前
に立った時には自信を持って教
育活動を展開できると思います。

国

際社会といわれる現代で
は、「世界が人を育てる」
というグローバルな観点に立てば、
多方面から創意工夫された新し
い教育が見えてきます。その一方、
学校現場では「子どもの学力や家
庭教育力の低下」「いじめの増加」
「規範意識の低下」など今日的な
課題も山積しています。

いま一度、教育の「不易」と「流
行」は何かを子どもの「学び」と
「育ち」の両面から検証し、教員



にしもと ひろこ さん
西本弘子さん

小野市立河合小学校教頭

大学と教育現場での 学びを生かして 授業で勝負できる教員の養成を

一人一人が自覚を新たに授業力
の向上に向けて、研さんしなけ
ればいけないことを痛感してい
ます。「教師は授業で勝負する」。
この言葉を聞くと、いつの時
代にあっても、授業へのこだわ
りを深めることこそ、教員の使
命、責務であると確信を持って
言えるようになりました。

「授業実践リーダーコース」で
は、カリキュラム、授業開発能
力などを学ぶ「クールな研究」、
教育現場に向いて教材開発、
授業研究などを学ぶ「ホットな
実践研究」と、「大学」と「教育現
場」の二方面で研究に取り組ん
でいきます。私自身、学校現場に
おいて指導的役割を果たそうと
する同コースには大いに期待し
ています。

教員の資質や能力は、研修、
経験を積むことで向上していき
ます。常に「先憂後楽」的な姿勢
で、自己改革を図ることを目標
に、地道に歩んでいきたいと思
います。



き た む ら あ か り
喜多村明里
 体育・芸術教育学系准教授

研究 レポート

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。



サンドロ・ボッティチェッリ《春》(1470年代後半)ウフィツィ美術館蔵

「美術史学」とは、今までに人類が生み出してきた多様な造形や視覚的イメージ、無数の美術作例を研究し、その解釈批評を語り合う学問です。深く調べ、考えること、語り継ぐことで、美術史

絵画に見る「結婚」のイメージ

学はより豊かな美術鑑賞の世界の基礎を築き、さらに次代の新しい造形やイメージ、新たな美術文化の生成に貢献し続けています。

私の近年の研究テーマは「15世紀イタリア絵画における「結婚」と女性の〈徳〉の表象」。ルネサンス期の女性と家族の概念、結婚をめぐる制度や習俗―花嫁の持参金の額が何よりも重視されていた―を調べながら、当時の絵画を新たな視点で読み解くことに挑戦しています。

例えば、サンドロ・ボッティチェッリの《春》に描かれたフローラ(右から3人目)は古代ローマ神話の「花の女神」ですが、彼女は無理やり西風の神の妻にされながらも、花嫁の持参金として美しい「花咲く野」を与えられたので一応満足した、という逸話の持ち主です。《春》はメデイチ家の新婚夫妻のために描かれた祝婚画ですから、フローラの個性的な容貌と笑顔にはおそらく、父親の命令に従い、莫大なお金を携えてメデイチ家の花嫁となった女性個人の肖像が読み取られることでしょう。

また、愛の女神ウエヌスの頭上にいる

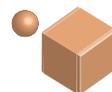
右／花の女神フローラ
 左／クピド(キューピッド)



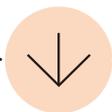
クピド(キューピッド)がなぜ目隠しをしているのか、愛の弓矢で狙っているのがなぜ「三美神」の中央の人物なのかは、研究者にとっても大きな謎です。目隠しは「分け隔てのない愛」か「見境のない愛」、 「盲目的な愛」を意味しますが、ここでさらに、「三美神」が当時の花嫁の理想とされていた〈愛〉(貞節・純潔)〈知恵〉

の美德を表したと仮定して、15世紀の「妻」に期待された重要な任務の一つが「子どもの出産と養育」であったことを考慮すると、謎がおぼろに解けてきます。妻が貞節すぎて純潔のままでは子どもが生まれず、それでは困る！ではありませんか。つまり、クピドが愛に燃え立たせようと標的に狙い定めるのは、花嫁の〈貞節〉の美德。 「三美神」の中央の人物でなければならなかったはずで、《春》は、愛に満ちた貞節な新妻が盲目的なまでに夫を愛して子どもを生むことを願った、15世紀のフイレンツェ人の結婚概念をよく示しているのです。

従来の《春》の研究では、メデイチ家周辺の学者や教養人が論じていたネオプラトニズムの思想に基づく作品解釈が主流でした。しかし、近年では社会史や女性史の知見を加えた研究が進んでいます。過去の芸術家や注文主、批評家は圧倒的に男性が多いので、逆にその裏側で女性が絵画や彫刻について何を考え、どのように捉えていたのか、女性と芸術をめぐる研究が注目されているのです。美術史学は、人間のことがよく分かる面白い世界なのです。



近年、一部の識者の間では、日本の学校にも「バウチャー制度」を導入しようという声が上がっています。制度の内容と海外での導入例を教えてください。



バウチャー制度とは、学校選択制の一つの形態で、1955年にアメリカの経済学者フリードマンが提案しました。政府が各家庭にバウチャー(金券)を配布し、子ども、保護者はそのバウチャーをもって学校を選択します。学校には集まったバウチャーの数に基づき、資金が配分される仕組みです。学校への予算配当額は在籍者数によって左右されるので、子どもの獲得をめぐる学校間の競争が生まれ、それが学校の質の向上を促すという考え方に基づいています。

諸外国での導入例は少なく、アメリカでも導入している地域はごく一部に限られています。学校の序列化、低所得者層と高所得者層との教育格差拡大など、マイナスの影響が懸念されてい

るからです。導入するとしても全面的なものではなく、格差是正を目的として、低所得者層に限定してバウチャー制度を活用している例もあるようです。

日本では規制改革の一環としてバウチャー制度の導入を求める声があり、平成17年に閣議決定された「規制改革・民間開放推進3カ年計画」において、教育バウチャー制度の意義、問題点の分析など、さまざまな観点から十分な研究・検討を行う、ということが盛り込まれました。それを受けて、文部科学省内に「教育バウチャーに関する研究会」が設置され現在、研究、検討が進められているところです。研究会での議論を見る限り、導入には慎重な意見が多いように思います。

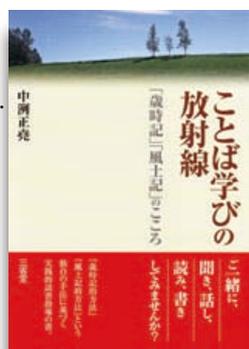


ちく さ とも あき
竺沙知章
基礎教育学系准教授



教員の 著書紹介

Books



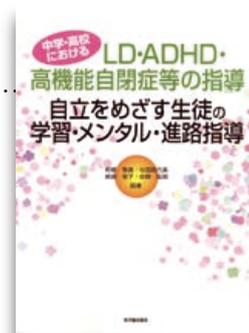
ことば学びの放射線 「歳時記」「風土記」のころ

(三省堂・平成19年刊)

著者：中渕正堯(社会・言語教育学系特任教授)

平成3年から11年まで、本学大学院の総合科目「自然と文化」の講義を担当した。国語教育学を専門とする立場から、この主題にどう取り組むか、何をテキストにするか、まさに授業を創造しなくてはならなかった。本書は、その「自然と文化」での考察が大ききよりどころとなっている。主題にある「と」のありようを追究するために、小主題を設けた。本書では、そのうち「花」「川」「竹」「鳥」「虫」「魚」「月」「風」「雪」の9つをそれぞれ1章としている。これら小主題に関する文献・資料を探索して、「と」の関係を責めていくとき、実質的な「ことば学び」が生動する。

※教員の著書は附属図書館で閲覧できます。詳しくは学術情報課☎0795・44・2062へ問い合わせください。



中学・高校における LD・ADHD・高機能自閉症等の指導 自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導

(東洋館出版社・平成19年刊)

編著者：柘植雅義(臨床・健康教育学系教授)、秋田喜代美(東京大学教授)、納富恵子(福岡教育大学教授)、佐藤絃昭(青森県立青森高校校長・全国高等学校長会副会長)

中学校・高校で、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症などの生徒の指導に当たっている教員向けに、学習、メンタル、進路指導の3つの観点から実践事例を集めて編集しました。巻末には、すでに学校を卒業した本人とその家族の方々に、中学校・高校時代を振り返り、寄稿していただいています。

なお、本書は、発達障害の指導に関する「幼児期における」「小学校における」から成る3部作の1つです。

学生の主体性を尊重し 自由に研究させてくれます



私たちの先生

藤井徳行 教授
社会・言語教育学系



広島弁の穏やかな口調からは時折、冗談も飛び出します。週一回のゼミの時間。

藤井徳行先生の柔和な人柄が、教室を和やかな雰囲気にします。

藤井先生の主な研究分野は日本近現代政治史と同和問題研究。一口に日本近現代政治史と言っても、歴史、政治、法律、民俗、思想、教育など多分野を内包し、時代も幕末期から昭和期までと幅が広いため、先輩方の修士論文のテーマも、海援隊、幕末期の姫路藩、神奈川第4区での第1回衆議院総選挙、地域の祭りなどバラエティーに富んでいます。ちなみに私は、慶応3年(王政復古政府期)の越前藩の政治を研究しています。

し、興味・関心のままに研究させてくれて、私たちが温かく見守ってくれます。それは先生自身が興味・関心の幅が広い、好奇心おう盛な方だからだと思います。ゼミでの研究発表でも、いつ



も通りの穏やかな口調で指導、助言をしてくれるので、私たちも緊張することなく自分の意見を率直に出せます。先生はゼミ以外でも学生との交流を大切にされており、日ごろから私たちをよく食事に誘ってくれます。また、毎年春休みには院生、学部生とともに旅行を楽しんでいます。私にとって先生やゼミ生との交流は、癒やしの時間でもあります。

活発に意見が飛び交うゼミの時間



藤井徳行 ふじい・のりゆき

広島県出身。昭和50年、慶応義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。平成5年、兵庫教育大学学校教育学部教授を経て、17年から大学院学校教育研究科社会・言語教育学系教授に。権力変動期における体制選択の研究、日本軍隊の国民的支持基盤の研究などに取り組んでいる。著書は「現代政治学の課題／明治元年・東北朝廷処分の一考察-輪王寺宮の処遇-」(成文堂・18年刊)など多数。

轟和也さん

大学院修士課程社会系コース2年

先生から学生たちへ



いい教師はいい研究者でもあつてほしいと願っています。ゼミ研究というものは、好きであれば普通では信じられないような出会いの場面が貴重な資料の発見や新しい見方につながっていきます。この時の喜びが持続する情熱を養います。そんな喜びを分かち合った仲間とは卒業しても末永く付き合えます。

教育でも研究でも基礎基本を忘れてはいけないことも伝えたいです。基礎基本は変わらないが、時々刻々と変化する状況や社会的ニーズに応じられる柔軟な研究姿勢が大切です。そのためには基礎知識と研究のノウハウ、スキルをしっかりと身に付けてほしいと願っています。

卒業生からの
手紙

大学院での経験が今の私に力を与えてくれる

沖縄でしか暮らしたことのなかった私が、教員生活14年目で兵庫教育大学の大学院で勉強したいと思ったのは、仕事で行き詰まりを感じていたからです。このまま教師を続けられるのだろうか、という焦りのようなものが何年もくすぶり続けていました。3年前、「教員として視野の広い魅力的な人間になりたい」という切実な思いを胸に、大学院での勉強を決意しました。

兵庫での生活は見るものすべてが新鮮でした。沖縄では見られない風景、全国各地から集まった幅広い年齢層の友人や尊敬できる恩師との出会い…。年齢差のある友人と毎日深夜まで語り合い、研究に燃え、勉強する喜びと苦悩を久しぶりに味わいました。研究室の窓から山々を眺め、遠く沖縄のことを思いながら深夜まで研究に打ち込みました。孤独でつらいながらも充実していた日々が懐かしく思われます。

大学院では国文学専攻でありながら、地理学の成瀬敏郎教授の下で沖縄とギリシャの「土」の研究をさせていただき、沖縄のことが立体的に見えてきたことは貴重な経験になりました。教師という視点からではなく学生としての視点で物事を見ることができた経験が、2年ぶりに現場に復帰した私に力を与えています。今年度は、教育相談係を任されていますが、大学院での経験をカウンセラーの仕事に生かして生徒たちのさまざまな悩みに寄り添い、自分自身も成長できれいばと思っています。

あか みね かず え
赤嶺和江さん

沖縄県立那覇西高校教諭



沖縄県出身。沖縄の県立高校の国語教諭を務めた後、平成16年に大学院修士課程学校教育研究科総合学習系コースに入学。沖縄とギリシャの比較風土論の研究に取り組み、1年の秋にはタイのアユタヤに3カ月間留学した。18年に沖縄県立那覇西高校に赴任し、今年度は学校教育カウンセラーを担当している。

生徒との接し方にも大学院で学んだことが生きています

たけ やす ゆう いち
竹安雄一さん

兵庫教育大学研究補佐員

丹波市出身。平成18年、学校教育学部学校教育専修を卒業し、兵庫教育大学の研究補佐員に就く。文科省の現代GP選定事業「NANAっくす(学生参加による不登校支援ネットワーク)」のコーディネーターを務めている。



「一つがだめなら他がある」をスローガンに掲げる「おるたねっ」というウェブサイトがあります。主に不登校の児童生徒とその保護者に向けて、ユニークな学校や学校以外の居場所に関する情報を提供しているサイトです。学生時代、このサイトの運営に携わっていた関係で、昨春に卒業してからは、大学の研究補佐員として不登校支援ネットワーク「NANAっくす」のコーディネーターをしています。

NANAっくすでは、主に兵庫県内の不登校支援施設と兵庫教育大学が連携、協力しながら、学生をボランティアスタッフとして不登校支援施設に派遣したり、そのフィールドリポートを学内外に発信するなどの仕事をしています。コーディネーターの仕事を通して思うのは、「社会ってそんなに厳しくないよ。人ってそんなに恐くないよ」ということを、少しでも先に生きている人が後輩たちに伝えることが大切ということです。大人の世界のいじめが子どもの世界のいじめにつながっていたり、社会の不安が子どもの不安につながっていたりします。豊かな日本に生まれた私たちは、小さいけれど大きな「幸せ」を見落としているのかもしれませんが、何よりも「自分」が笑顔でいることが大切だと思います。私自身も、あなた自身もです。時には、立ち止まってしまうこともあるでしょう。だからこそ、顔を上げた時に青空が気持ちよく感じるのだと思います。

学生たちと不登校支援施設での活動について打ち合わせ。NANAっくすはテレビや新聞で紹介されることも



自分が笑顔でいれば子どもも笑顔になる

スポット・ライト



孫工 未央さん

大学院修士課程芸術系コース2年

丹波市出身。平成14年に県立柏原高校卒業後、大阪音楽大学を経て、18年に大学院修士課程芸術系コースに入学。18年に入団したフィルハーモニック・ウインズ大阪ではトランペットを担当。昨年12月には故郷、丹波市主催のクリスマスコンサート(やまなみホール)に出演した。

会場の空気が
一体となる瞬間
奏者としての
喜びを実感する



フィルハーモニック・ウインズ大阪は関西の若手演奏家が集い、10年4月に自主運営の吹奏楽団として発足しました



4月にリリースされた「えとごどりvol.1」(2,500円)。吹奏楽のだいご味を堪能できる全8曲を収録。「中学や高校の吹奏楽コンクールの選曲にも役に立ちます」と孫工さん

孫工未央さんは、若手演奏家の吹奏楽団「フィルハーモニック・ウインズ大阪」でトランペット奏者として活躍しています。

中学校で吹奏楽部に入ったのがトランペットとの出会い。「当初は、ただ楽しいというだけで練習に励んでいました。まさかこの歳になるまで続けることになるとは思いませんでした」と振り返ります。高校時代は進路のことで悩み、自分が何をすればいいのか分からず苦悩す



大学の藤井研究室で日課の自主練習に励みます

る時期もありました。そんな時でも、トランペットを吹いている時間は気持ちに染みになり、「自分らしい瞬間」だと考えたそうです。

彼女にとって楽団の先輩たちと演奏することは誇りであり、多くの刺激を受けるといいます。「耳、心、体、そして空気が一体となる吹奏楽の世界は格別です。ステージで感動を味わうたび、トランペットをやっ

てきて本当に良かったと思います。フィルハーモニック・ウインズ大阪が今年4月にリリースした自主企画CD「えとごどりvol.1」の

録音にも参加しています。

現在、全国各地での公演、吹奏楽コンクール、定期演奏会に出演するほか、大学時代の友人たちと演奏会を企画することも。「ステージをこなしていると自分にまだ足りないもの、今後の課題が見えてくる」とおう盛な向上心をのぞかせます。

「大学院で取り組んでいる音楽の集団的指導プログラムの立案などの研究も、演奏活動に大いに役立っています。特に藤井一男教授から音楽表現、感性、人生観を学んだことで、自分の引き出しが増えました。この経験は将来、教員としても演奏家としても、必ず生きてくると思います」



得意のぶり大根、豚汁、きんぴらごぼう。「最近は何の食材を使ったヘルシーな和食に凝っています」

自慢の料理を囲む友人との夕食会は至福の時間です



これに夢中！



とねだ え 刀禰田ゆり江さん

大学院修士課程
小学校教員養成特別コース1年

私の趣味は料理を作ること。家の冷蔵庫は何の食材などいつでも一杯です。私の料理の先生は同居していた祖母で、働いている母の代わりに毎日料理を作ってくれました。小学生のころから料理上手な祖母の横に立ち、いろいろと教わったおかげで、和洋中を一通り作れるようになりました。

料理の楽しさはいくらでも創意工夫できるところです。自分が作った料理を味わう時間は心がとても癒やされます。器好きが高じて料理にはまっている服部泉さん、初めての一人暮らしで料理修業中の松尾佳奈さんはクラスメートであり、気心の知れた料理友達。一緒に大学にお弁当を持っていったり、夕食は誰かの部屋に集まってお互いの得意料理を披露し合ったりしています。

New Face

決意を胸に大学院へ 現場で役立つ実践力を 身に付けたい



おおえ みよこ 大江実代子さん

19年度大学院修士課程
言語系コース入学

「夢はあきらめた時に夢になる」とはイチロー選手の言葉です。今春、担任していた6年生と「自分を好きでいること、自分を信じること、夢を夢で終わらせないこと」を約束し合い、私は自分の夢に向かって大学院の門をくぐりました。

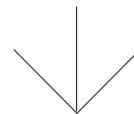
学校現場と違ってゆっくと流れる時間。「学ぶ」ことに集中できる環境に身を置き、人との新たな出会いに感動しています。専門性に長け話術に富んだ言語系コース(国語分野)の先生方、常に笑顔で親切に対応してくれる事務局の方々。全国各地から集まってきた意欲的



な同期の仲間たちに刺激を受ける毎日です。また、課題研究や講義を通して、

新たな知識を吸収する充実感や問われた時の緊張感心地良く懐かしくもあり、身の引き締まる思いです。そして得た新たな視点をもって「学び」や「国語科の授業」を考え、現場での実践に結び付けたいと考えています。

入学式で梶田学長が言われた「自分を戒め、謙虚に謙虚に学ぶ」を心の中で繰り返しながら、2年間の大学院での生活を楽しんで「学び」続けたいと思っています。



社会貢献活動の一環として平成14年度にスタートした「スクール・パートナーシップ事業」。県内の小・中・高校をはじめ、地域の自主的な研究グループや学習サークルの勉強会などに大学教員を講師として派遣し、知識の還元を図ります。



2日間で延べ8時間に及んだ「指揮法講習会」。初日は講話を中心に、2日目は本庄中学校の吹奏楽部の協力を得て実技講習を実施しました



学校現場や地域の学びの場に 大学教員が「出前講座」します

新学期を目前にした春休みの一日、神戸市立本庄中学校の体育館で「指揮法講習会」が開かれました。望月由美子先生(体育・芸術教育学系助教)を講師に招いたのは、神戸市立大池中学校の音楽教員である村尾恵一さん。村尾さんは昨年、兵庫教育大学で開かれた教員向けの指揮法講座を受講し、スクール・パートナーシップ事業のことを知りました。

「ドイツの歌劇場で専属指揮者を歴任してきた望月先生から本格的な指揮法を学び、授業や吹奏楽部の指導に生かそう」と、県内の中学校の音楽教員に参加を呼び掛けたところ、18人が集まりました。

「指揮棒を振るときはひじだけを動かすのではなく、まず先に手首から動かします。そうすることで個々の音のかたまりを明確に示し、さらに持続したフレーズを形成することができ、ます。指揮者にとっても最も自然に体を使えるだけでなく、奏者にとっても最も見やすい指揮になるのです」

望月先生の手本を見ながら、指揮棒を振る受講生の面々。ステージでは本庄中学校の吹奏楽部の部員たちがスタンバイしています。受講生の大半が大学時代に学んだ指揮法とは音楽家、齋藤秀雄氏が昭和二十五年に発表した「指揮法教程」を基にしたもの。「齋藤指揮法は、拍ごとのリズムから指揮棒の振り方を規定しているの、音による言葉、フレーズや音楽の内面性、内在するエネルギーに至るまでを表現することは不可能です。齋藤指揮法が誕生したのは大曲のほとんどもを限られた海外からの招聘指揮者に頼っていた時代。いつまでも五十年以上前の指揮法にとらわれず、現在の最も本質的かつ理想的な指揮法を身に付ける必要があります」と



公開講座の受講生を募集

兵庫教育大学では教育研究の成果を広く社会に提供しようと、一般市民や現職教員などを対象に「公開講座」を開いています。教員養成系大学の特色を生かした講座内容で、みなさんの多様な学習意欲にお応えします。

開=開講日時 所=開講場所 対=対象
定=定員 受=受講料 *最少受講人数に満たない場合は開講しません

ベートーヴェンの「運命」を振る!

名曲「運命」の指揮に挑戦し、音楽の表現手法を学びます。

開6月23日(土)、30日(土)、7月7日(土)14:00~16:00
所兵庫教育大学芸術棟 対一般(中学生以上) 定8~12人* 受5,300円 参加受付6月11日まで

暮らしの中の有害化学物質を知ろう

身の回りの製品に含まれる化学物質と、それが私たちの健康に及ぼす影響について勉強します。

開7月7日(土)、14日(土)、21日(土)13:30~17:00 所神戸サテライト 対一般 定20人 受6,700円 参加受付6月18日まで

簡単ロボット製作で学ぶ コンピュータの仕組みと制御

簡単な教育用自律型移動ロボットの製作を通して、コンピュータの仕組みと制御を学びます。

開7月30日(日)~8月1日(月)13:30~16:30 所兵庫教育大学自然、生活・健康棟 対一般(Windowsの経験がある中学生以上) 定5~6人* 受6,200円 参加受付6月21日~

絵画制作

絵を描くことで創作・表現の楽しさを体験しながら、絵画の知識を高めます。

開8月3日(金)~6日(日)13:00~18:00 所兵庫教育大学芸術棟 対一般 定15人 受8,500円 参加受付7月2日~

ピアノを弾こう!

基本的なテクニックを身に付け、期間中に1曲をマスターします。最終日にはミニコンサートを開きます。

開9月15日(土)~10月27日(土)(指定の土曜・全5回) 10:00~13:00 所兵庫教育大学芸術棟 対一般(18歳以上で音大生・音大出身者を除く) 定10人 受7,500円 参加受付8月6日~

ガムランはともだち

バリの伝統楽器、ガムランの奏法を学び、簡単な曲を1曲仕上げます。

開9月15日(土)~10月27日(土)(指定の土曜・全6回) 13:30~16:30 所兵庫教育大学芸術棟 対一般 定6~15人* 受8,100円 参加受付8月6日~

身近な言葉を探る—地域と時間の観点から—

日本語学の知見をく地域的な広がり>とく時間の流れ>という2つの観点から考えます。

開10月2日(日)~11月6日(日)(毎週火曜・全6回) 19:00~21:00 所コミュニティセンター小野(小野市) 対一般(高校生以上) 定6~20人* 受6,900円 参加受付8月24日~

Ureshino Scramble

19年度版の
パンフレット



スクール・パートナーシップ事業のあらまし

小・中・高校などの教育現場をはじめ、自主的な研究グループや学習サークルといった地域の生涯学習の場に大学教員を派遣します。「教員の資質向上」「教育の質的向上」「地域内教育の活性化」「児童・生徒等の学習意欲の向上」を4本柱に約280の講座テーマを用意しています。

◎派遣依頼の方法

- ①パンフレットに掲載の講座テーマ一覧から希望のものを選び、担当教員に直接連絡を取り、日程や講座内容などを打ち合わせる
- ②「派遣依頼書」を大学へ送付する
- ③事業利用料を入金する

◎事業利用料

1回の派遣につき2万円(別途実施場所までの往復の交通費)。開講日の5日前までに入金していただきます。ただし、兵庫教育大学と連携協力校の協定を結んでいる学校からの依頼については事業利用料を免除します。

◎パンフレットの請求と問い合わせ

地域交流推進センター ☎0795-44-2053

大学ウェブサイト(www.hyogo-u.ac.jp)でも講座テーマの一覧を掲載しています



自分の順番が回ってくる間、イメージトレーニングを繰り返す受講生たち

望月先生は語ります。

望月先生が実演した後、受講生一人一人を演技指導。最初に、本庄中学校の吹奏楽部顧問でもある永田隆博さんが指揮台に立ちましたが、指揮を始めた途端、先生のチェックが入り、演奏はストップ。アドバイスは指揮棒の振り方はもちろん、立つ姿勢や指揮棒を持たない左手の使い方にまで及びます。その一言、一言に真剣な表情でうなずく永田さんとは対照的に、生徒たちからはクスクスと笑い声が。永田さんは顔を赤らめながら、「望月先生のアドバイスは齋藤指揮法とすべてが逆。齋藤指揮法では手首を動かしてはいけないと学びましたから。本当、面食らいます」。

4時間にわたる講習を終えて、村尾さんは「随分、上達したと思います。今後さらなるレベルアップを図り、講師をお願いしたいですね」と講習の成果を実感している様子。一方、望月先生も「出前講座は初めての経験でした。講習の時間配分などは少し見直す部分もありますが、今回のご縁を大切に継続的なお付き合いができれば」と話します。

スクール・パートナーシップ事業は学校の課外授業、市民の学習グループの勉強会などにも利用できます。みなさんも「出前講座」で専門知識を磨いてみませんか。

◎平成20年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)

◎入学定員 200人

前期と後期の2回に分けて募集します。

<前期選抜試験>

◎学生募集人員(160人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	15人
臨床心理学コース	昼間クラス	25人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		18人
特別支援教育コーディネーターコース		8人
▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	18人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	13人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	15人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間 7月20日☎~27日☎(消印有効)

◎試験日 筆記・口述試験…8月18日☑

口述試験……………8月19日☑

◎合格者の発表 9月7日☎10:00

<後期選抜試験>

◎学生募集人員(40人)

▶学校教育学専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理学コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	夜間クラス	15人
▶特別支援教育学専攻		
心身障害コース		2人
特別支援教育コーディネーターコース		2人

▶教科・領域教育学専攻		
言語系コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間 12月18日☎~25日☎(必着)

◎試験日 筆記・口述試験…1月12日☑

口述試験……………1月13日☑

◎合格者の発表 1月24日☎16:00

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

☎入試課 ☎0795・44・2067

☆教職大学院(専門職学位課程)
〔設置計画中〕

教職大学院は平成20年4月の開設を計画しており、学生募集は文部科学省の大学設置・学校法人審議会の設置認可後(11月下旬)に行う予定です。出願期間、試験日、合格者の発表は学校教育研究科(修士課程)後期選抜試験と同日程になる予定です。

◎学生募集人員(100人)

▶教育実践高度化専攻		
学校経営コース		20人
授業実践リーダーコース	昼間クラス	30人
	夜間クラス	若干人
心の教育実践コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		30人

※昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

☎入試課 ☎0795・44・2067

◎大学院学校教育研究科
(修士課程)説明会

神戸、大阪、東京で開催。大学院学校教育研究科(修士課程)の教育課程や専攻・コース改革など

の概要について説明します。個別相談の時間も設けます。

<神戸開催>

◎日時/場所

〈前期〉6月9日☑、6月23日☑、7月14日☑いずれも13:30~15:00/神戸市総合教育センター
〈後期〉10月20日☑、11月3日☑、11月17日☑、12月8日☑いずれも13:30~15:00/神戸サテライト

<大阪開催>

◎日時/場所

〈前期〉6月30日☑14:00~15:30〈後期〉12月1日☑14:00~15:30/キャンパス・イノベーションセンター
大阪地区(前・後期とも)

<東京開催>

◎日時/場所

〈前期〉6月30日☑13:30~15:00〈後期〉12月1日☑13:30~15:00/キャンパス・イノベーションセンター
東京地区(前・後期とも)

☎入試課 ☎0795・44・2067

☎0795・44・2069

office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎平成19年度オープンキャンパス
(学校教育学部)

受験生とその保護者、高校の進路指導担当者などを対象に開催します。

◎日時 7月22日☑11:00~16:00(受付開始10:30)

◎場所 兵庫教育大学

☎入試課 ☎0795・44・2067

☎0795・44・2069

office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎兵庫教育大学教育研究振興基金

兵庫教育大学では、平成20年10月に創立30周年を迎えるにあたり、「兵庫教育大学教育研究振興基金」を設立しました。

この基金は、広く皆様のご協力を仰ぎながら教育研究の充実を図り、社会から信頼される優れた教員を養成するという大学の使命をより一層果たしていくことを目的としています。

趣旨にご賛同くださる皆様から、基金に対するご支援をお待ちしています。

◎寄付の申し込み、問い合わせ

兵庫教育大学教育研究振興基金事務局
(総務部総務課秘書室)

☎0795・44・2406、2333 ☎0795・44・2009

office-hisyo-r@hyogo-u.ac.jp

http://www.office.hyogo-u.ac.jp/gen/kikin/index.html

編 集 後 記

●兵庫教育大学では4月から新専攻がスタートしました。6年一貫教育課程の検討や学部教育課程の見直しも進みつつあります。こうした変わりつつある大学の様子を丁寧に届けることができたらいいなと思っています。本年度も「教育子午線」にご協力をよろしくお願いいたします。(は)

●今号からリニューアルした誌面はいかがだったでしょうか。教育界をリードする兵庫教育大学の数々の取り組み、学生たちのこと、教職員のこと、お知らせしたいことは山ほどあります。これからも「発信する大学」をめざして頑張ります。「教育子午線」のバックナンバーはウェブサイト(<http://www.hyogo-u.ac.jp>)でご覧いただけます。(こ)

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。

はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナルステッカーを進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室

☎0795・44・2334 ☎0795・44・2009 E-mail:office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

教育子午線
Kyoiku-Shigosen

第14号 2007年6月発行

発行/兵庫教育大学 大学広報室

http://www.hyogo-u.ac.jp

編集協力/㈱神戸新聞マーケティングセンター